イタリアの宿泊・飲食業、11月の採用予定は7万2,000人で最多に

全国の採用予定45万2,000人のうち飲食関連は6万2,000人。求人の44.2%で採用難が見込まれる

2026年11月12日（木）



Unioncamereとイタリア労働・社会政策省が運営する調査システムExcelsiorによると、イタリアでは11月、宿泊・飲食・観光分野で7万2,000人の採用が予定されており、企業が広く採用を増やすなか、同分野は国内でも特に労働需要の大きい分野となる見通しだ。同調査では、11月の全産業の採用予定数は約45万2,000人で、2025年11月比2.1%増となった。また、2026年11月から2027年1月までの採用予定数は130万人を超える。

11月12日（木）に発表されたこの数字は、雇用の純増数ではなく、企業の採用計画を示すものだ。この枠組みで見ると、宿泊・飲食業は採用予定数の多さに加え、同分野で飲食関連の仕事が占める割合の高さでも際立っている。Excelsiorによると、飲食・フードサービス関連の職種は国内で最

も需要の高い職種群で、11月の採用予定数は6万2,000人だった。これは、販売職の4万4,000人、商品の運搬・配送に携わる未熟練労働者の3万人を上回り、飲食業が同月のイタリアの労働需要の中心に位置することを示している。

より広く見ると、採用を牽引しているのは引き続きサービス業だ。Excelsiorによると、11月の採用予定数の66.7%に当たる30万1,000人超をサービス業が占める。建設業を含む工業分野では約12万1,000人の採用が見込まれ、全体の26.7%に相当する。第一次産業は約3万人、6.6%となる見通しだ。

サービス業の中では、宿泊・飲食・観光が採用予定数7万2,000人で主要分野のトップとなった。これに商業の7万1,000人、個人向けサービスの5万4,000人が続く。サービス業以外では、建設業も採用予定数4万4,000人と、労働需要の大きな分野となっている。

Excelsiorによると、2025年11月と比べた採用の伸びが特に大きかったのは、農業・林業・狩猟・漁業、企業や個人向けの業務支援サービス、機械・電子機器製造業だった。宿泊・飲食・観光については前年比の伸び率を個別に示していないものの、11月に採用が予定される分野としては最大となった。晩秋から初冬にかけての需要に備えて人員を確保しようとするホテルやレストランなど、観光関連事業者にとって特に注目されるデータだ。

調査からは、労働市場の逼迫が続いていることもうかがえる。企業は、募集する人材の44.2%に当たる約20万人分について、採用が難しいと回答した。宿泊・飲食業では、需要が強くても採用が順調に進むとは限らない。とりわけ、多くのサービス業の雇用主が同時に現場スタッフを奪い合う市場では、その傾向が顕著だ。

職種によっては、採用難がさらに深刻だ。Excelsiorによると、熟練労働者や設備・機械のオペレーターでは不足が特に目立ち、採用難の割合は57.5%に達する。充足が難しい職種のうち、建築仕上げ工事の専門職は不足率76.9%、整備士・組立工・修理工・保守作業員は74.5%、エンジニアリング技術者は69.3%となっている。

企業が採用に苦労する最大の理由は候補者不足で、採用予定数の25.9%に影響しているという。さらに14.2%のケースでは、応募者の準備や技能が不十分だと企業が回答した。地域差も見られる。南イタリアでは採用の伸びがより大きく、採用予定数は2025年11月比3.6%増と、全国の伸び率を上回った。

職種別では、事務職と販売・サービス職を合わせると、11月の採用予定数の35.7%を占める。顧客対応やサービス関連の仕事が労働市場で中心的な役割を担っていることが改めて示された。熟練労働者と機械オペレーターは29%、未熟練職は18.4%、管理職・専門職・技術職は16.9%を占める。宿泊・飲食業にとって、この内訳は飲食・サービス職に需要が集中していることを裏付けるもので、これらは11月調査で最も大きな採用需要となった。